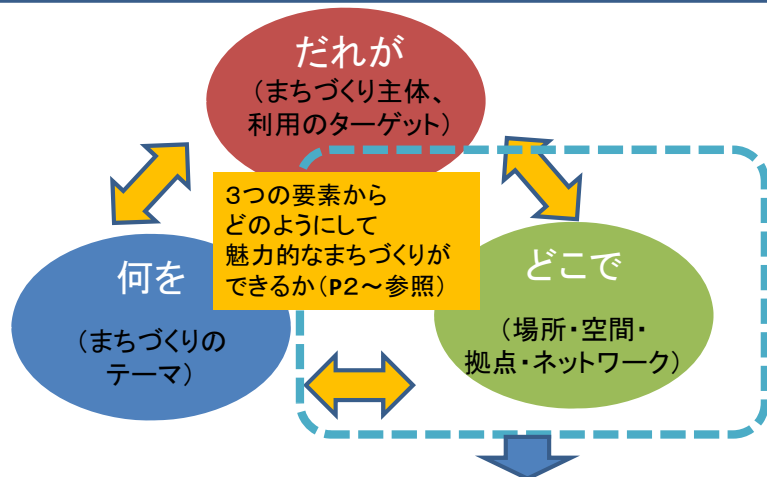


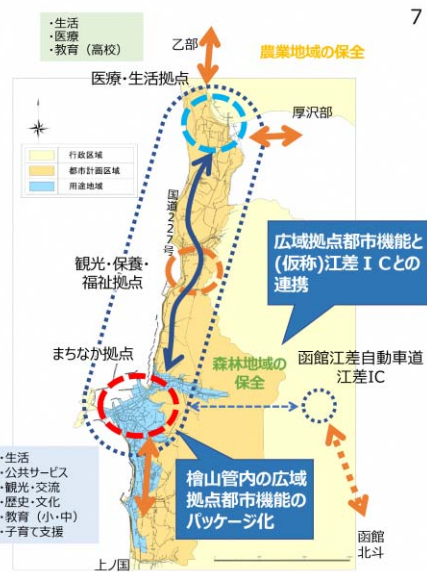
①都市計画マスタープラン、立地適正化計画素案骨子の作成

- これまでの地域の意見(町民ワークショップ、策定委員会など)から地域課題の解決策を抽出し、都市マスとして整理できること、他の計画に委ねることなどを整理しました。(資料2参照)
- 資料2の意見などを踏まえ、地域の課題の解決策となる内容を、都市計画マスタープラン、立地適正化計画の中間素案骨子として整理しました。(別冊資料)



都市計画マスタープランは「どこで」の視点を重視して整理(基本目標、将来像図、方針図)

<広域レベル>



<都市レベル>



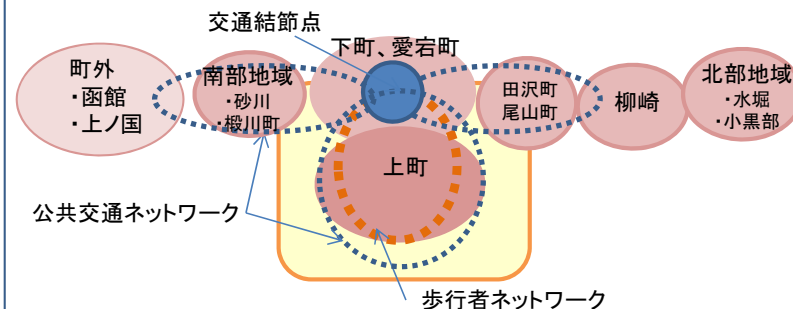
江差独自の計画としてブラッシュアップするために「だれが」「何を」「どこで」を地域の意見を聴きながら深堀していく

②まちづくりの“ツボ”マップの作成

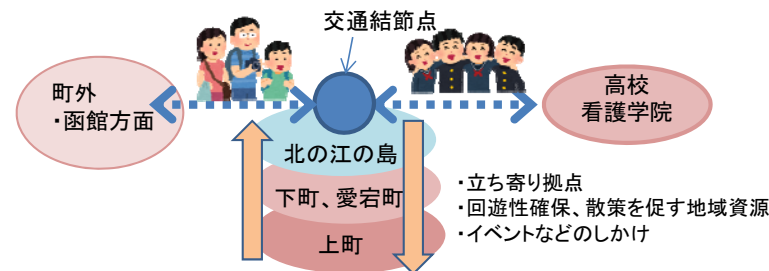
素案骨子で位置づけた拠点やゾーン(北の江の島、下町、上町、柳崎など)のまちづくりがもっとうまくいくためには(様々な人がもっと活用するには、今ある課題を解決するには)どのような取り組みを“ツボ”として押さえるのがよいか、策定委員会の意見や各部局・団体へのヒアリングを通じて整理します。

- “ツボ”という言葉を用いる意図は、都市を人体に見立て、ツボを刺激すると血液や神経の流れが良くなることになぞらえて、人(町民や観光客)やモノの流れをよくするために、拠点やネットワークをどのように使いやすくしていくか、江差町ならではの効果的な方法を見出すことを目的としています。
- 都市にとってのツボの設定の仕方は、広域的な拠点もあれば町内の中核的な拠点、さらには地区や町内会を単位としたレベルなど様々なにあります。また、様々な町民層(ターゲット)が出かけやすい、利用しやすい空間やしかけ、他分野との連携策などを考える必要があります。

例1 お年寄りが安心して買い物できる環境をつくるには?



例2 学生や若者、観光客が気軽に訪れることができるまちなかをつくるには?(北の江の島、下町、上町)



より深堀されたツボマップの情報を、都市計画マスタープラン、立地適正化計画にフィードバック